



冬姫と氏郷の夫婦
の足跡を記す



**蒲生氏郷と冬姫の
案内看板が設置されました**

1月13日(水)、蒲生氏郷公顕彰会が日野城址の登り口に「氏郷と冬姫」の肖像画付き案内看板を設置されました。看板の大きさは縦2.7m、横2.7mで、織田信長の次女である冬姫と氏郷が結婚した1569年からの年表が記されています。

看板に描かれている冬姫の肖像画は、正式なものが見つかっていないため、文楽絵師の方に依頼し新たな冬姫像を描かれたそうです。

同会会長の長澤康信ながさわのりしんさんは「氏郷公の功績を皆さんに知っていただきたい。それがひいては町おこしにつながってほしい」と話してくださいました。

※「冬姫」は俗称

将来のまちづくりについて アイデアを発表

1月14日(木)、南比都佐小学校6年生10名が日野町役場を訪れ「まちの幸福論」に関するプレゼンテーションを行われました。

これは、国語科の授業で、将来のまちづくりについて意見を発表する学習です。今回のプレゼンテーションは、子ども達が「自分達のアイデアを町職員に聞いてほしい」と提案し実現したものです。

プレゼンテーションでは、南比都佐地区の問題点をどうしたら改善できるか、良いところをどうしたら活かせるかを考え、「花いっぱい運動」や「公園のトイレアート」などのほかの地域の事例をもとに素敵なアイデアがたくさん出されました。

町長や副町長など、50名以上の前で堂々と発表



心の動きを十七音に 俳句教室

1月15日(金)、日野小学校6年生の俳句教室が行われました。教室には、地元の俳句グループ「鳩の会」を招き、指導を受けられました。

今回は、河原の浄光寺じやうくわうじや出雲川堤防周辺を散策し、吟行ぎんこうしてから一人2作品を作句。班ごとに代表作を選抜し発表されました。鳩の会の皆さんから教わった季語を使い「龍の玉 子どものように かくれんぼ」「梅早し きれいな桃色 二度見する」など、すばらしい作品が出来上がりました。

鳩の会の皆さんは「大人の感性とは違うおもしろい感性。今年は吟行もしたので、良い句がたくさんありました」と話してくださいました。

※吟行：俳句をつくるために景色のよい所に出かけること。

校外へ出向き、自然や実物に触れ俳句を詠む



楽しい旬の話題をお知らせください

身近なできごとや旬の話題を、企画振興課秘書広報担当
(役場1階・町長懇談室 ☎0748-52-6550)までお知らせください。
皆さんからの情報をお待ちしています!!



命の学習

生きていられることは奇跡

1月27日(水)、桜谷小学校6年生を対象に、助産師の齋藤智孝(さいとうちか)さんを講師に招き「命の学習」が行われました。

学習では、心も元気でいるために「自己肯定感」を高めることや、周りの人に感謝し、今を精一杯生きる大切さについて話されました。日本ユニセフ協会が配信している「ハッピーバースデー3・11」の動画や助産師の経験を通して「皆かけがえのない存在」「生きていられることは奇跡」であると伝えられました。

毎年、県内の小学校から大学まで120校以上で講演をされている齋藤さんは「赤ちゃん達に力いっぱい生きてほしい。命を迎える準備をしてちゃんと育てられる大人に成長してほしい」と思って活動しています」と話してくださいました。学習を終え鈴木凱翔(すずき かいせう)さんは「生きていられることが



幸せなんだと思った。ずっと心配してくれているお母さんありがとうがとつと思つた」と話してくださいました。

赤ちゃんの重さを体験し「結構重たい」と驚いていました

国際交流と多文化共生

人権学習講座

1月27日(水)、わたむきホール虹で甲賀市国際交流協会事務局局長・多文化共生マネージャーの大河原佳子(たかはら けいこ)さん(北畑)を講師に招き、人権学習講座が開催されました。

講座では、「国際交流と多文化共生 甲賀市国際交流協会の取り組みから」を演題に「あつてはいけないちがいをなくす」「なくてはならないちがいをまもる」「ちがいを大切に作る社会をつくる」という、多文化共生の大切な「三つの視点」について甲賀市国際交流協会の活動をもとにお話されました。

大河原さんは「国際親善協会や役場だけでなく、学校、職場、地域など、それぞれの立場で三つの視点をもつ『ひと』をつくることで多文化共生の地域づくりができるので「と話されました。



講座は町のYouTubeでご覧いただけます



交通安全教室

バスの乗り方を体験

2月1日(月)、桜谷小学校の全校児童を対象に近江鉄道株式会社と滋賀県の交通戦略課の皆さんを講師に招き「交通安全教室」が行われました。

同校では、バス通学の児童が7割近くおり、「バスの乗り方を学校で教えてほしい」という保護者からの声をうけ実施されました。

学習では、実際にバスに乗車し、路線バスの乗り方や気をつけなければいけないことを学びました。また、公共交通の役割についてのお話もあり、子ども達は熱心にメモをとって聞いていました。

川筋悠斗(かわすぢ ゆうと)さん(6年生)は、「運転席に乗って、手前があまり見えなくて、奥は見えると知りました。公共交通の話聞いて、皆で乗って守っていかないといけないな」と思いました。と話してくださいました。



元と足を確認して左右を下



運転手からどこまで見えているかを体験